

PICK UP
THE PERSON

(株)アイズクリエーション
代表取締役

口町 裕昭

KEY WORD

現場主義 —genbasyugi—



小学3年生から大学までの十数年間、サッカーに没頭していたという口町社長。「父が若いころサッカーをしていて、私にもやらせたかったようだ。

最初は父が喜んでくれるから、サッカーをやっていたようなものでしたね」。しかし、いつしか人のためではなく、自分のために練習を重ねるようになった。持久力と忍耐力。そして、諦めない、負けない気持ち。サッカーを通して学んだことは多く、「挨拶の大切さ」や「現場主義」もその一つだ。経営者という立場に甘んじず、今もなおプレーヤーとしても活躍する社長。現役選手ながら、従業員と共にフィールドを走り回る日々だ。

「『元気な挨拶』と『現場主義』をモットーに、従業員と共に今も現場で走り回っています」

様々な挑戦を経て運送業に活路を見出し 挨拶を大事に、さらなる事業発展を続ける



代表取締役

口町 裕昭

社長の足跡

茨城県古河市出身。学業修了後は大手運送会社に就職して約6年間勤務。28歳の時に起業する。IT関係からスタートして、電気関連の事業、投資、海外でのゴルド関係の事業など様々なことを経験する。5年前、すでに2014年に設立していた『アイズクリエーション』で、運送事業を開始する。

CHECK POINT

「やる気」と「挨拶」を大切に人材を育成

▼わずか数人からはじめた運送事業だが、順調に業績を伸ばし続けて、今では55名の大所帯に成長した。コロナ禍もあってインターネット通販の市場がさらに拡大し、運送業界は慢性的な人手不足に陥っている。その中でこれだけの人材を確保できるのは何故なのだろうか。

▼社長は人材を選ぶ際に大切にしている条件がある。それは「挨拶」だ。挨拶が大事だと教えてくれたのは、社長の祖母なのだそう。「当社ではやる気と運転免許、元気な挨拶ができる方なら、どんな方でも一人前のドライバーにな

これまで様々な会社を立ち上げ、いくつもの事業を手掛けってきた口町社長。2014年に設立した『アイズクリエーション』もその中の一つだ。元々はIT関連の事業を行っていたが、5年前からは運送事業にシフトチェンジ。新たな一歩を踏み出した同社を、本日はタレントの松尾伴内氏が訪問。お話を伺った。



た。もうゼロではなく、マイナスからのスタートでしたね。

——それでも、諦めずにまた挑戦してみようというところが素晴らしいですよ。

当時は子どもが1歳になることで、これからはマイナスをプラスにし、子どもも育てていかないといけないと必死だったんですね。それで、昔携わっていた運送の仕事を再スタートを切りました。最初は一次契約ができず、一次契約の会社から仕事をいただくたちで3年半ほど経験と信用を蓄積し、1年半前によくやく一次契約を勝ち取ることができたんです。

——そこから徐々に人も増やしてこられたのですね。

ええ。人を増やせば車も必要になりますが、蓄えがないのでそう簡単にはいきません。その中で車の販売会社の社長さんや同業の社長さんとの出会いがあり、色々とお力添えをいただいて従業員や車を増やし、人脈を広げることもできました。現在は従業員も50名以上。振り返ってみればたくさん

の失敗を経験し、人に裏切られたこともありましたが、やつぱり支えてくれるのは人ですし、ここにきて人との出会いに恵まれてありがたく思っています。

——これまで立ち上げられた他の会社は、今は経営されているのでしょうか。

この『アイズクリエーション』も元々はIT関連ですが、1年半前からは運送会社として再始動し、これからは運送事業1本でプレーすることなくやっていきたらと思っています。

——お話を聞かせください。

今年中には車を100台にしたいと思っています。そして将来も身体が動く限りはずっと現場で仕事をしていきたい。元々運送の仕事が好きなので、まだ経営だけに専念するつもりはありません。社長が率先して動かないと誰もついてきませんね。現場主義を貫き、従業員と共に事業発展に導いていけたらと思っています。

株式会社 アイズクリエーション

【本社】 東京都中央区銀座 6-3-6 栄ビル 5F
【支店】 千葉県鎌ヶ谷市鎌ヶ谷 3-1-5
URL : <http://eyes-c.jp>

——お仕事のお話の前に、口町社長の歩みからお聞かせください。

茨城県古河市の出身です。小学3年から大学卒業まで、ずっとサッカー漬けの生活を送っていました。父が若いころにサッカーをやっていて、私にやらせたかったようですね。最初は父を喜ばせるためのサッカーでしたが、小学4年の時に上級生のチームに選ばれなかつたことがあります。大泣きして、そこから走り込みをして脚力と持久力をつけました。その後は選抜チームで10番を背負わせてもらえたまでになりました。将来はプロになることを夢みています。けれども大学時代にケガをして、プロになる道を諦めました。

——では学業を終えられて最初に就かれたお仕事は?

大手運送会社に就職して6年間勤務しました。2年目ぐらいからは、サッカーでブロになつた友達に追いつき、追い越した

という気持ちが強くなりましてね。そのためににはサラリーマンでは無理なので、起業したいと思うようになりました。そこから起業のための資金を貯めようと仕事に没頭しましたね。

——では6年勤めをされて起業されたの

——アフリカでゴールドを買うということをしようか。

ええ。現地の方からゴールドを安く譲り受け、ドバイで売るんです。その後、色々あってガーナという国で取り引きをはじめたのですが、現地の人に騙されて一文なしになつてしまつて。日本に戻ってきたのが5年前なんです。

——そこからこちらの会社を立ち上げられたのでしょうか。

私はこれまでいくつか会社を立ち上げていて、この会社は2014年に設立しています。元々IT関連の事業をするため立ち上げたのですが、しばらくそのままになつていて。ゴールドのビジネスをしている時も、別の会社で『東京電力』さんの仕事を続けていましたが、もう完全に人任せだつたので成り立つていない状態でし

た。そこから電気の勉強をして認定試験を受けて事業をスタートしたんです。少しずつ利益が出だすと、色々な投資話をされ込んできて投資をするようになつたのですが、なかなかうまくいかなくて。7年ほど前からは海外のビジネスにも関わるようになりました。

——社長は色々なことに挑戦してこられたのですね。海外のビジネスとおっしゃいますと、どのような?

ゴールドのビジネスです。知り合いの社長さんがアフリカでそのビジネスをされていて、最初はお手伝いをする程度だったんです。1年間ほど一緒に海外に行つたり、社長が行けない時は代理として行つたり、その中で現地の方とも人脈ができ、ノウハウも身についたので自分でやつてみようと思つたんですよ。

——アフリカでゴールドを買うということをしようか。

ええ。現地の方からゴールドを安く譲り受け、ドバイで売るんです。その後、色々あってガーナという国で取り引きをはじめたのですが、現地の人に騙されて一文なしになつてしまつて。日本に戻ってきたのが5年前なんです。

——そこからこちらの会社を立ち上げられたのでしょうか。

私はこれまでいくつか会社を立ち上げていて、この会社は2014年に設立しています。元々IT関連の事業をするため立ち上げたのですが、しばらくそのままになつていて。ゴールドのビジネスをしている時も、別の会社で『東京電力』さんの仕事を続けていましたが、もう完全に人任せだつたので成り立つていない状態でし



●ゲストインタビュー：松尾 伴内
(タレント)



「小学生のころから続けてこられたサッカーを通じて、様々なことを学んだとおっしゃる口町社長。特に諦めない気持ちや負けたくないという気持ち、忍耐力、持久力は大きな財産となり、社会人になってからも、経営者になってからも大いに役立ったそうです。今も従業員さんと一緒にハンドルを握っておられる社長。これからも益々お元気で頑張ってください！」